

使用テキスト

配本年度

『メディア専門職養成シリーズ 1 第二版 学校経営と学校図書館』山本順一編著(学文社)2012 年度～

科目概要

教育的背景や法的背景といったあらゆる視点から、学校図書館が設置されている意義や学校図書館の経営について、幅広く理解することを目的とする。具体的には、学校図書館の理念と現状をしっかりと把握すること、さらに、学校図書館を運営していくにあたって基本的に必要なものを理解すること、その上で、今後の学校図書館運営に必要なものは何か、自身の意見を形成できることである。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 学校図書館が設置されてから現在に至るまでの歴史について理解する。
2. 学校図書館の現状を理解し、その問題点を把握する。
3. 学校および学校図書館における司書教諭の役割を理解する。
4. これからの学校図書館がよりよいものになるにはどうすればよいかを自分の言葉で考察できるようになる。

■ 科目の学習要点事項

1. 学校図書館と教育行政
2. 学校図書館の教育的意義
3. 学校図書館の経営方法
4. 司書教諭の任務、司書教諭と学校司書の協働
5. 学校図書館メディアの選択、管理、提供
6. 学校図書館活動の内容と対象
7. 図書館の相互協力

参考文献

『こうすれば子どもが育つ学校が変わる—学校図書館活用教育ハンドブック』山形県鶴岡市立朝陽第一小学校編著(国土社)2003

『学校図書館の光と影—司書教諭を目指すあなたへ』坂田 仰ほか編(八千代出版)2007

『学校図書館 ABC—運営から指導まで 改訂3版』学校図書館研修資料編集委員会編(全国学校図書館協議会)2004

『司書教諭・学校司書のための学校図書館必携—理論と実際』全国学校図書館協議会監修(悠光堂)2015

■レポート評価

レポートとは何か、どのように書くものなのかを学習した上で、設問に対して論理的に記述すること。レポートは感想文でもエッセイでもないということに留意し、レポートを作成するにあたり使用した参考文献(教科書以外)の書誌事項を文献リストとして必ず明示すること。教科書の写しや他の文献の写しといった、他人の著作権を侵害するなどの不正レポートは認めない。『科目概要・レポート課題』の解説がレポートに反映されているかも評価の観点となる。

■科目終了試験評価

出題の主旨を正しく理解していること、その主旨にしたがって論理的に記述されていることの2点を見る。また、学校図書館関係の専門用語について、その用語の意味を理解できているか(自分の言葉で簡潔に説明できているか)も評価のポイントとなる。

使用テキスト

配本年度

『学習指導と学校図書館』 堀川照代編（樹村房）

2012年度～2016年度

『学習指導と学校図書館』 齋藤泰則編（樹村房）

2017年度～

科目概要

- 学習・情報センターとしての学校図書館の機能について学習する。
- 児童・生徒の情報活用能力を育成するための学習指導の理論と実践について学習する。
- 学校図書館を活用する学習指導案について学習する。
- 司書教諭による児童・生徒および教員への支援のあり方について学習する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

- 学習・情報センターとしての学校図書館の機能について理解する。
- 児童・生徒の情報活用能力を育成するための学習指導の理論と実践について理解する。
- 学校図書館を活用する学習指導案を立案できるようになる。
- 司書教諭による、児童・生徒および教員への支援のあり方について理解する。

■ 科目の学習要点事項

- 1 学習指導における学校図書館の役割と機能
- 2 教育課程における学校図書館
- 3 探求的・主体的な学習を支える学校図書館
- 4 情報活用能力の内容と指導方法
- 5 学校図書館メディアを活用した情報活用能力の育成
- 6 教職員への学校図書館活用のためのアプローチ
- 7 学校図書館メディアの利用指導計画の立案
- 8 学校図書館メディアの利用指導計画の展開
- 9 学校図書館メディアの利用指導計画の評価
- 10 学習支援における司書教諭の役割

参考文献

- ① 日本学校図書館学会学校図書館研究会『学校図書館を活用した学習指導実践事例集』教育開発研究所, 2013年
- ② 全国学校図書館協議会監修『司書教諭・学校司書のための学校図書館必携:理論と実践(改訂版)』悠光堂, 2017年
- ③ 金沢みどり編著『学校司書の役割と活動—学校図書館の活性化の視点から』学文社, 2017年
- ④ 塩谷京子著『司書教諭の実務マニュアル—シオヤ先生の仕事術』明治図書出版, 2017年
- ⑤ 堀川照代著『学校図書館ガイドライン』活用ハンドブック 実践編』悠光堂, 2019年
- ⑥ 竹内純子著『学校図書館 ひらめきアイデアノート』少年写真新聞社, 2019年。

インターネットを利用して、都道府県の教育センターのサイトや「全国学校図書館協議会」(<https://www.j-sla.or.jp/>)のサイトや「全国学力・学習状況調査」(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/)、「PISA OECD生徒の学習到達度調査」(<https://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/>)等からも必要な情報を入手しましょう。

評価基準

■レポート評価

レポートは、『レポート課題・レポート作成に当たっての解説』を熟読した上で作成すること。授業の指導案は、自身で立案したものであること。単にテキストや他の文献を写したものは不合格とする。

■科目終了試験評価

- ・本科目の学習要点事項について、テキストを中心に学習した上で出題の主旨を理解し、論理的に回答できたか。
- ・本科目のテキストで使われているキーワードを正確に説明し、回答の中で適切に使用できたか。

使用テキスト

配本年度

『読書と豊かな人間性の育成』 天道佐津子編著 (青弓社)

2012年度～2018年度

『メディア専門職養成シリーズ4 読書と豊かな人間性』 黒古一夫・山本順一編著 (学文社)

2019年度～

科目概要

- ・読書の意義と目的について理解する。
- ・子どもの読書の推進に関する法や施策について理解する。
- ・児童・生徒の読書の現状や、学校で行われる読書活動の現状を理解する。
- ・読書と児童・生徒の発達との関係、発達段階に応じた読書指導の方法を理解する。
- ・読書指導の方法(ストーリーテリング、読み聞かせ、ブックトーク、アニメーションなど)を理解し、人と本をむすびつける技術を学び、読書活動を計画する。
- ・学校図書館における読書材の種類を理解し、それらを選択し、提供することを学習する。
- ・学校図書館の読書センターとしての機能と役割を学習する。
- ・子どもの読書活動を支援するために、司書教諭と家庭、地域、公共図書館が連携することを学習する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 読書の意義と目的について理解できるようになる。
2. 子どもの読書の推進に関する法や施策について理解できるようになる。
3. 児童・生徒の読書および学校での読書活動についてそれぞれの現状を理解できるようになる。
4. 読書と児童・生徒の発達との関係について理解し、発達段階に応じた読書指導ができるようになる。
5. 読書指導の方法を理解し、校内での読書活動の計画ができるようになる。
6. 学校図書館における読書材の種類を理解し、それらを選択し、提供できるようになる。
7. 読書センターとしての学校図書館の機能と役割を理解できるようになる。
8. 子どもの読書活動を支援するために、司書教諭として、家庭、地域、公共図書館との連携について理解できるようになる。

■ 科目の学習要点事項

1. 児童・生徒にとっての読書の意義
2. 子どもの読書推進に関する法と施策
3. 児童・生徒の読書の実態と学校図書館の現状
4. 読書能力の発達と読書興味の発達
5. 児童・生徒の発達段階に応じた読書指導とその計画
6. 学校における読書活動とその指導方法(読み聞かせ・ストーリーテリング・朝読書・ブックトーク・読書のアニメーション)
7. 学校図書館の選書基準、選書ツール、リクエスト
8. 学校図書館における読書環境の整備と校内協力体制
9. 読書センターの機能をもつ学校図書館における司書教諭の役割
10. 読書活動推進のための家庭、地域の読書関連施設、公共図書館、地域社会との連携と協力

参考文献

- ① 『読書教育の方法－学校図書館の活用に向けて』立田慶裕編著(学文社)
- ② 『児童サービス論(ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望 7)』望月道浩, 平井歩実編著(学文社)
- ③ 『読書と豊かな人間性 (探究 学校図書館学 第4巻)』『探究 学校図書館学』編集委員会編著(全国学校図書館協議会)

評価基準

■レポート評価

レポートは、『履修の手引き』を熟読した上で作成すること。ブックトークは、学生自身で立案したものであること。テキストや他の文献の写しは不合格とする。

■科目終了試験評価

- ・本科目の学習要点事項についてテキストを中心に学習した上で、出題の主旨を理解して、論理的に解答すること。
- ・本科目のテキストで使われているキーワードを正確に説明し、自身でも回答の中で正確に使用できること。

使用テキスト

配本年度

『学校図書館メディアの構成』「シリーズ学校図書館学」編集委員会(全国学校図書館協議会)

2019年度～2020年度

『学校図書館メディアの構成(探究学校図書館学2)』

「探究学校図書館学」編集委員会(全国学校図書館協議会)

2021年度

科目概要

学校図書館が提供する情報メディアについて、その種類と特性を知り、それらをいかに選択して構成すべきか、その上でそれらをいかに組織化して提供するかについて理解を図る。またそれらを多様な学習環境のなかで、教師や児童・生徒が活用できるよう支援、指導する方法について考察する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

学校図書館メディアの新旧様々な情報メディア(活字メディア、視聴覚メディア、パッケージ系・ネットワーク系電子メディア)について基本的な知識を修得する。それらのメディアをいかに組織化、情報化していくのか図書館の本質に関わる必須事項を理解する。その上で具体的にはスクーリングにおいてコンピュータとインターネットを活用する方法も含め、分類、目録、件名法に重点を置きながら実践的演習をして理解を深める。

■ 科目の学習要点事項

1. 高度情報社会における学校図書館メディア
2. 学校図書館メディアの種類と特性
3. 学校図書館メディアの選択と構築
4. 学校図書館メディアの組織化
5. 目録法および目録の作成
6. 目録のコンピュータ化
7. 分類法と件名法
8. 特別な支援を必要とする児童・生徒のための学校図書館メディア

参考文献

『学校図書館メディアの構成』緑川信之編著(学文社)2008年

『学校図書館メディアの構成(司書教諭テキストシリーズ02)』小田光宏編著(樹村房)2002年

評価基準

■ レポート評価

学校図書館司書教諭として図書館の本質を正確に理解して、情報化社会の学校教育に寄与できる知識と実践力を修得されたかを評価する。課題の意図しているキーワードを把握しているかどうか、科目の学習要点事項がどの程度網羅的に考察し論述されているかを点検する。

科目概要

学校図書館が提供する情報メディアについて、特に新しいメディアの種類と特性を知り、それらをいかに選択し構成すべきか、その上でそれらをいかに組織化して既存のメディアと統合して提供するかについて理解を図る。またそれらを最新の多様な学習環境のなかで、教師や児童・生徒が活用できるよう支援、指導する方法について考察する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

学校図書館メディアの新しい情報メディア(教育用ソフトウェア、ネットワーク上の情報資源等)について基本的な知識を修得する。それらのメディアをいかに組織化、情報化して、従来のメディアとともに提供していくのかを理解する。具体的にはスクリーニングでコンピュータやインターネットを活用して、情報検索と学校図書館のWebサイトによる発信の方法や技術に重点を置きながら実践的演習をして理解を深める。

■ 科目の学習要点事項

1. 知識基盤社会と人間
2. 情報メディアの種類と特性
3. 情報メディアの選択
4. コンピュータの理解と活用
5. 情報検索の理論
6. 授業におけるICT活用
7. 学校図書館のWebサイトによる情報発信
8. 学校図書館メディアと著作権・個人情報保護

参考文献

『情報メディアの活用』井口磯夫編(樹村房)2002年

『情報メディアの活用』二村健著(学文社)2006年

『情報メディアの活用と展開 改訂版』中山伸一編著(青弓社)2009年

『情報メディアの活用 三訂版』(放送大学教材) 山本順一、気谷陽子編著(放送大学教育振興会)2016年

評価基準

■ レポート評価

学校図書館司書教諭として図書館の本質を正確に理解して、情報化社会の学校教育に寄与できる知識と実践力を修得されたかを評価する。課題の意図しているキーワードを把握しているかどうか、科目の学習要点事項がどの程度網羅的に考察し論述されているかを点検する。